

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【四半期会計期間】	第78期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	イサム塗料株式会社
【英訳名】	Isamu Paint Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 北村 倍章
【本店の所在の場所】	大阪市福島区鷺洲2丁目15番24号
【電話番号】	(06) 6458 - 0036
【事務連絡者氏名】	総務部長 糸洲 治夫
【最寄りの連絡場所】	大阪市福島区鷺洲2丁目15番24号
【電話番号】	(06) 6453 - 4511
【事務連絡者氏名】	総務部長 糸洲 治夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第77期 第2四半期 連結累計期間	第78期 第2四半期 連結累計期間	第77期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	3,715,484	4,042,757	7,600,668
経常利益 (千円)	297,771	460,955	637,838
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	199,589	315,273	436,651
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	206,488	422,253	518,432
純資産額 (千円)	16,267,660	16,901,854	16,530,765
総資産額 (千円)	19,534,939	20,513,522	19,859,621
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	104.71	165.40	229.07
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	81.3	80.4	81.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	298,481	279,633	688,358
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	205,162	110,557	473,757
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	54,061	54,088	105,943
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	3,371,870	3,777,372	3,441,270

回次	第77期 第2四半期 連結会計期間	第78期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	46.89	72.47

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が第5類に分類され、経済社会活動の正常化が進み、企業収益は総じて緩やかに改善の動きがみられました。個人消費、設備投資に持ち直しの動きが、雇用情勢には改善の動きがみられ、景気全体は緩やかに回復しております。

一方で世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられますが、ウクライナ情勢の長期化や世界的な金融引き締めに伴う影響、物価上昇等による下振れリスクがあります。わが国においても、原材料価格やエネルギー価格の高止まり、企業物価指数や消費者物価指数の上昇などが懸念され、当社グループを取り巻く環境は予断を許さない状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは一定の需要に対し安定して製品供給すべく事業活動を継続し、自動車補修用市場でのシェアの拡大を図るため、顧客ニーズに沿った環境対応型塗料や高機能性塗料で販路拡大に注力するとともに、大型車両分野や工業用分野などの新規市場開拓や建築用塗料の受注拡大に向け、営業活動を展開いたしました。

売上高については、原材料価格や物流コスト等の上昇分の一部を販売価格に転嫁し、収益確保に努めてまいりました。

利益面につきましても、ウクライナ情勢の長期化ならびに原材料価格やエネルギー価格が高止まりしたことから、収益環境を慎重に見極め、生産部門における設備投資を必要最小限とし、不急の設備維持経費を抑制するなど総コストの上昇を一定程度に抑えることに注力いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比較して、資産は6億54百万円増加、負債は2億83百万円の増加、純資産は3億71百万円増加しました。

資産の増加の主なものは、受取手形、売掛金及び契約資産3億37百万円、現金及び預金3億36百万円、長期預金3億円、投資有価証券2億27百万円、減少の主なものは有価証券6億円であります。

負債の増加の主な要因は、電子記録債務1億55百万円、支払手形及び買掛金74百万円であります。

また、純資産の増加の主な要因は、利益剰余金2億68百万円、その他有価証券評価差額金1億1百万円となっております。

経営成績

当第2四半期連結累計期間の売上高は、40億43百万円（前年同四半期比8.8%増加）となりました。また、利益面におきましては、営業利益は4億6百万円（前年同四半期比64.0%増加）、経常利益は4億61百万円（前年同四半期比54.8%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億15百万円（前年同四半期比58.0%増加）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

塗料事業は、売上高39億92百万円（前年同四半期比8.9%増加）、営業利益は3億83百万円（前年同四半期比69.6%増加）であります。

その他は、売上高51百万円（前年同四半期比1.7%増加）、営業利益は23百万円（前年同四半期比6.7%増加）であります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3億36百万円増加し、37億77百万円（前年同四半期末33億72百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、2億80百万円(前年同四半期2億98百万円)となりました。

その主な要因は、増加した資金では、税金等調整前四半期純利益4億61百万円、仕入債務の増加2億46百万円、減少した資金では、売上債権の増加3億37百万円、法人税等の支払額1億12百万円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の増加は、1億11百万円(前年同四半期2億5百万円の減少)となりました。

その主な要因は、増加した資金では、有価証券の償還による収入9億円、投資有価証券の売却及び償還による収入3億20百万円、減少した資金では、投資有価証券の取得による支出7億円、定期預金の預入による支出3億円、有形固定資産の取得による支出1億15百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、54百万円(前年同四半期54百万円)となりました。

その主な要因は、配当金の支払額47百万円によるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、115百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	9,600,000
計	9,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,000,000	2,000,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	2,000,000	2,000,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2023年7月1日~ 2023年9月30日		2,000,000		1,290,400		1,209,925

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
北村初美	大阪市福島区	443	23.25
北村健	大阪市福島区	442	23.20
イサム塗料栄勇会	大阪市福島区鷺洲2-15-24	246	12.93
内藤征吾	東京都中央区	59	3.09
長瀬産業株式会社	大阪市西区新町1-1-17	33	1.75
第一生命保険株式会社 (常任代理人 株式会社日本カ ストディ銀行)	東京都千代田区有楽町1-13-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	30	1.60
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	30	1.59
イサム塗料従業員持株会	大阪市福島区鷺洲2-15-24	25	1.32
石原産業株式会社	大阪市西区江戸堀1-3-15	24	1.25
株式会社ダイセル	大阪市北区大深町3-1	21	1.13
計	-	1,356	71.14

(注) イサム塗料栄勇会は取引先を対象とした持株会であります。

(6) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 93,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,893,300	18,933	-
単元未満株式	普通株式 12,800	-	-
発行済株式総数	2,000,000	-	-
総株主の議決権	-	18,933	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が99株含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
イサム塗料株式会社	大阪市福島区鷺洲2丁目15番24号	93,900	-	93,900	4.69
計	-	93,900	-	93,900	4.69

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清稜監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,951,270	5,287,372
受取手形、売掛金及び契約資産	2,188,393	2,525,418
有価証券	1,300,000	700,000
商品及び製品	936,924	931,574
仕掛品	144,469	170,982
原材料及び貯蔵品	225,272	261,729
その他	65,027	104,826
貸倒引当金	5,214	5,962
流動資産合計	9,806,141	9,975,939
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,010,368	3,039,768
減価償却累計額	1,945,966	1,979,408
建物及び構築物(純額)	1,064,402	1,060,360
機械及び装置	741,875	753,798
減価償却累計額	580,219	602,683
機械及び装置(純額)	161,656	151,115
工具、器具及び備品	588,070	642,204
減価償却累計額	456,973	476,150
工具、器具及び備品(純額)	131,097	166,054
土地	1,344,467	1,344,467
リース資産	90,660	90,660
減価償却累計額	71,372	73,987
リース資産(純額)	19,288	16,673
有形固定資産合計	2,720,910	2,738,669
無形固定資産		
ソフトウェア	17,971	13,729
リース資産	2,566	2,252
施設利用権	228	171
電話加入権	6,555	6,555
無形固定資産合計	27,320	22,707
投資その他の資産		
投資有価証券	5,296,163	5,522,769
長期預金	1,300,000	1,600,000
保険積立金	458,022	452,306
繰延税金資産	229,225	182,471
その他	33,255	30,076
貸倒引当金	11,415	11,415
投資その他の資産合計	7,305,250	7,776,207
固定資産合計	10,053,480	10,537,583
資産合計	19,859,621	20,513,522

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	372,744	446,403
電子記録債務	1,322,464	1,477,334
リース債務	6,456	6,456
未払金	169,167	176,937
未払法人税等	122,797	150,608
未払消費税等	46,912	53,527
前受金	4,218	4,224
預り金	64,410	83,008
賞与引当金	111,489	114,282
その他	42,566	45,180
流動負債合計	2,263,223	2,557,959
固定負債		
長期預り保証金	270,760	272,291
リース債務	17,633	14,405
繰延税金負債	44,690	44,596
役員退職慰労引当金	110,597	104,524
修繕引当金	112,500	116,250
退職給付に係る負債	509,453	501,643
固定負債合計	1,065,633	1,053,709
負債合計	3,328,856	3,611,668
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,290,400	1,290,400
資本剰余金	1,210,742	1,210,742
利益剰余金	13,500,993	13,768,612
自己株式	178,724	179,187
株主資本合計	15,823,411	16,090,567
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	309,366	410,740
その他の包括利益累計額合計	309,366	410,740
非支配株主持分	397,988	400,547
純資産合計	16,530,765	16,901,854
負債純資産合計	19,859,621	20,513,522

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	3,715,484	4,042,757
売上原価	2,599,323	2,756,534
売上総利益	1,116,161	1,286,223
販売費及び一般管理費	868,607	880,116
営業利益	247,554	406,107
営業外収益		
受取利息	47	1,985
有価証券利息	10,214	8,415
受取配当金	10,967	12,599
受取賃貸料	26,025	25,823
その他	6,135	7,534
営業外収益合計	53,388	56,356
営業外費用		
支払利息	72	67
支払補償費	2,359	502
その他	740	939
営業外費用合計	3,171	1,508
経常利益	297,771	460,955
特別損失		
棚卸資産廃棄損	3,044	-
特別損失合計	3,044	-
税金等調整前四半期純利益	294,727	460,955
法人税、住民税及び事業税	96,471	137,971
法人税等調整額	9,226	2,105
法人税等合計	87,245	140,076
四半期純利益	207,482	320,879
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,893	5,606
親会社株主に帰属する四半期純利益	199,589	315,273

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	207,482	320,879
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	994	101,374
その他の包括利益合計	994	101,374
四半期包括利益	206,488	422,253
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	198,595	416,647
非支配株主に係る四半期包括利益	7,893	5,606

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	294,727	460,955
減価償却費	89,558	95,245
賞与引当金の増減額(は減少)	3,384	2,793
修繕引当金の増減額(は減少)	3,750	3,750
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,335	748
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	7,487	6,073
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	2,914	7,811
受取利息及び受取配当金	21,227	22,999
支払利息	72	67
棚卸資産廃棄損	3,044	-
売上債権の増減額(は増加)	171,340	337,026
棚卸資産の増減額(は増加)	44,764	57,620
仕入債務の増減額(は減少)	204,299	245,680
未払金の増減額(は減少)	3,951	2,980
未払消費税等の増減額(は減少)	31,827	6,615
その他	50,732	11,452
小計	351,383	369,892
利息及び配当金の受取額	27,527	21,780
利息の支払額	72	67
法人税等の支払額	80,357	111,972
営業活動によるキャッシュ・フロー	298,481	279,633
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	300,000
有価証券の償還による収入	600,000	900,000
有形固定資産の取得による支出	120,566	115,096
投資有価証券の取得による支出	999,533	700,299
投資有価証券の売却及び償還による収入	300,000	320,000
保険積立金の積立による支出	15,152	14,208
保険積立金の払戻による収入	30,000	20,000
その他	89	160
投資活動によるキャッシュ・フロー	205,162	110,557
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の純増減額(は増加)	122	463
リース債務の返済による支出	3,907	3,228
配当金の支払額	47,585	47,350
非支配株主への配当金の支払額	2,447	3,047
財務活動によるキャッシュ・フロー	54,061	54,088
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	39,258	336,102
現金及び現金同等物の期首残高	3,332,612	3,441,270
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,371,870	3,777,372

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形および電子記録債務

四半期連結会計期間末日満期手形および電子記録債務の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形および電子記録債務が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	-	149,039千円
支払手形	-	1,624千円
電子記録債務	-	85,334千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
従業員給料	257,276千円	255,614千円
賞与及び賞与引当金繰入額	74,599千円	74,742千円
役員退職慰労引当金繰入額	7,488千円	7,993千円
退職給付費用	19,392千円	21,416千円
貸倒引当金繰入額	2,335千円	748千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
現金及び預金勘定	5,381,870千円	5,287,372千円
預入期間が3か月を超える定期預金	2,010,000千円	1,510,000千円
現金及び現金同等物	3,371,870千円	3,777,372千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	47,655	25	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月7日 取締役会	普通株式	47,654	25	2022年9月30日	2022年12月9日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	47,654	25	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月6日 取締役会	普通株式	47,650	25	2023年9月30日	2023年12月8日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	塗料事業				
売上高					
外部顧客への売上高	3,665,678	49,806	3,715,484	-	3,715,484
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,665,678	49,806	3,715,484	-	3,715,484
セグメント利益	225,752	21,802	247,554	-	247,554

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	塗料事業				
売上高					
外部顧客への売上高	3,992,098	50,659	4,042,757	-	4,042,757
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,992,098	50,659	4,042,757	-	4,042,757
セグメント利益	382,846	23,261	406,107	-	406,107

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計
	塗料事業		
自動車補修用塗料	2,456,523	-	2,456,523
建築用塗料	198,329	-	198,329
工業用塗料	833,343	-	833,343
関連商品・その他塗料	177,483	-	177,483
顧客との契約から生じる収益	3,665,678	-	3,665,678
その他の収益	-	49,806	49,806
外部顧客への売上高	3,665,678	49,806	3,715,484

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計
	塗料事業		
自動車補修用塗料	2,664,080	-	2,664,080
建築用塗料	187,887	-	187,887
工業用塗料	932,134	-	932,134
関連商品・その他塗料	207,997	-	207,997
顧客との契約から生じる収益	3,992,098	-	3,992,098
その他の収益	-	50,659	50,659
外部顧客への売上高	3,992,098	50,659	4,042,757

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	104.71 円	165.40 円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	199,589	315,273
普通株主に帰属しない金額(千円)		-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	199,589	315,273
普通株式の期中平均株式数(株)	1,906,185	1,906,083

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第78期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)中間配当については、2023年11月6日開催の取締役会において、2023年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額.....47,650千円

1株当たりの金額.....25円

支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2023年12月8日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年10月31日

イサム塗料株式会社

取締役会 御中

清稜監査法人
大阪事務所

指定社員 公認会計士 船越 啓仁
業務執行社員

指定社員 公認会計士 森本 了太
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているイサム塗料株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、イサム塗料株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。